

研究発表会開催通知

(昭和59年2月15日～3月31日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
分散処理システム	2月17日(金)	13:00～16:30	機械振興会館	前号参照
設計自動化	2月21日(火)	13:30～17:00	同 上	同 上
数 値 解 析	2月24日(金)	13:30～17:00	同 上	同 上
計算機システムの制御と評価	3月2日(金)	13:30～17:00	同 上	下記参照
計算機アーキテクチャ	3月7日(水)	10:00～17:00	同 上	同 上
コンピュータビジョン	3月12日(月)	13:00～17:20	同 上	同 上
記 号 処 理	3月12日(月)	10:00～17:00	理 研	同 上
日本文入力方式	3月15日(木)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
自然言語処理	3月16日(金)	13:00～17:00	東 大	同 上
ソフトウェア基礎論	3月16日(金)	10:00～16:30	日本IBM	同 上
グラフィクスとCAD	3月16日(金)	9:00～17:00	機械振興会館	同 上
データベース・システム	3月23日(金)	13:30～17:00	同 上	同 上

◆ 第22回 計算機システムの制御と評価研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 益田隆司, 幹事: 小野欽司, 原田紀夫)

日 時 昭和59年3月2日(金) 午後1時半～5時
会 場 機械振興会館 地下3階2号室
 [東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 等々力-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]

- 議 題**
- (1) マイコンによる TSS 応答時間計測システムとその適用例
 藤村直美 (九大・情報処理教育センター)
 大塚信生, 牛島和夫 (九大・工)
 [概要] マイコンで TSS の応答時間を計測する方法と、そのデータをもとに行った性能改善の成果について報告する。
 - (2) データフローコンピュータ DFNDR-1 によるプログラムの実行と性能評価に関する考察
 曾和将容, 上村明利 (群大・工)
 [概要] 試作したデータフローコンピュータによるプログラムの実行結果をもとに、簡単な性能評価を行う。
 - (3) データフロー, コントロールフロー, ノイマイコンコンピュータのハードウェア性能の比較
 曾和将容 (群大・工)
 [概要] 十分な並列度があるプログラムを実行した時の、データフローコン

ピュータとコントロールフローコンピュータ，ノイマイコンコンピュータの性能を比較する。

◆ 第 44 回 計算機アーキテクチャ研究会 (発表件数：8 件)

(主査：飯塚 肇，幹事：坂村 健，大島一純)

日 時 昭和 59 年 3 月 7 日 (水) 午前 10 時～午後 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 沖電気の計算機開発の歴史と展望 西崎 実 (沖電気)

〔概要〕 沖電気の計算機の考え方，アーキテクチャ，歴史を主力機種である OKITAC SYSTEM 50 を中心に発表する。

(2) 東芝の計算機開発の歴史と展望

佐藤文孝，中条久夫，六反田喬 (東芝)

〔概要〕 東芝が開発した計算機の歴史とそのアーキテクチャをマイクロプログラムを中心として述べる。

(3) 三菱電機の計算機開発の歴史と展望

沢井善彦 (三菱電機)

〔概要〕 三菱電機の主たる計算機の歴史，最近の動向および設計の狙い，特徴について説明する。

(4) 日本電気の計算機開発の歴史と展望

発田 弘 (日電)

(5) 富士通の計算機開発の歴史と展望

—スーパーコンピュータを中心として—

茂木正徳 (富士通)

〔概要〕 75 APU，VP 100/200 開発のポイントおよびスーパーコンピュータの最近の動向，将来展望を述べる。

(6) 日立製作所の計算機開発の歴史と展望

—科学技術計算の高速化アーキテクチャについて— 河辺 峻 (日立)

〔概要〕 大規模な科学技術計算を高速に処理するためのベクトル処理アーキテクチャの発展過程を主に当社の製品を例にして述べる。

(7) 日電公社の計算機開発の歴史と展望

高村真司 (横須賀通研)

(8) パネル討論

我が国の商業計算機の開発—総括と展望—

相磯秀夫 (慶大・工)

◆ 第 29 回 コンピュータビジョン研究会 (発表件数：7 件)

(主査：辻 三郎，幹事：木戸出正継，杉原厚吉)

日 時 昭和 59 年 3 月 12 日 (月) 午後 1 時～5 時 20 分

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 画像処理用 LSI-ISP のアーキテクチャ (その 2)

福島 忠，小林芳樹，平沢宏太郎，坂東忠秋，柏岡誠治 (日立)

〔概要〕 Prewitt オペレータや Kirsch オペレータなどを高速に処理する LSI のアーキテクチャについて論ずる。

(2) 天気図データベースシステムの構成方式とその実現

山守一徳，吉田雄二，福村晃夫 (名大・工)

〔概要〕 天気図に含まれる種々の情報の 2 次元の特徴を符号化し，蓄積する方法について明らかにし，これらの方法に基づいて図形を検索のキーとする検索要求に対して，階層的に天気図の検索を行うシステムについて報告

する。

(3) 位相的構造記述による等圧線図検索システム

村山正樹, 吉田雄二, 福村晃夫 (名大・工)

〔概要〕 位相的構造記述に基づいて, スケッチを与えられてデータベース中より検索要求にあう等圧線図を求めるシステムについて報告する。

(4) 直角多面体の線画の解釈

金谷健一 (群大・工)

〔概要〕 直角な角の向きを投影図から計算し, 次に辺によって結ばれた角と角との変換の群の作用によって全体の形状を解釈する。

(5) 透視図と形状情報からの3次元復元

福井幸男 (製品科学研)

〔概要〕 物体面の内角や辺の長さの情報を参照して透視図から3次元情報をとり出す手法について述べる。

(6) 動画像と距離画像の併用による3次元運動の直接的推定法

山本正信 (電総研)

〔概要〕 動画像から距離情報を利用して剛体の3次元運動パラメータをフレーム間対応を求めることなく直接的に推定する手法について述べる。

(7) 走査線間の整合性を考慮した動的計画法によるステレオ対応探索

大田友一 (筑波大), 金出武雄 (CMU)

〔概要〕 ステレオ対応探索において, 走査線間の整合性を保つため連結エッジ同志の対応を考慮し, 動的計画法で最適解を求めるアルゴリズムについて述べる。

◆ 第29回 記号処理研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 間野浩太郎, 幹事: 稲田信幸, 後藤滋樹)

日時 昭和59年3月12日(月) 午前10時~午後5時

会場 理化学研究所 レーザ棟会議室

〔埼玉県和光市広沢 2-1, 東武東上線: 和光市(池袋より準急で14分)下車徒歩15分, Tel. 0484 (62) 1111〕

議題

(1) 数式処理における環境問題 佐々木建昭 (理研), 元吉文男 (電総研)

〔概要〕 数式処理における三大環境変化, 独立変数への値の付与, 変数および関数の順位の変更, 単純化規則の変更に対し, それぞれ環境数を導入して処理の効率化をはかる。

(2) 8086 用試作 Lisp の設計とその機能

井田昌之 (青学大・理工)

〔概要〕 Reduce を目標に, 86 系用の Lisp 処理系を試作した。この設計と機能, および性能上の位置づけについて報告する。

(3) マイクロコンピュータによる Lisp 汎用図形編集システム

山本 強, 小林隆広, 青木由直 (北大・工)

〔概要〕 パーソナルコンピュータ上で実現された Lisp による汎用図形編集システム—AIDS について報告する。

(4) EVLIS マシン上の Prolog インタプリタとその動特性

大寺信之, 斎藤年史, 清原良三, 西開地秀和, 安井 裕 (阪大・工)

〔概要〕 EVLIS マシン上に実現したマイクロプログラミングによる Prolog インタプリタについて, その評価と合わせて述べる。

(5) Prolog マシン PEK の開発の現状報告

田村直之, 和田耕一 (神大・自然科学研)

金田悠紀夫, 松田秀雄, 小林久和, 前川禎男 (神大・工)

〔概要〕 開発中の Prolog マシン PEK の現状について報告する.

(6) Prolog の図形的な動作表示法 後藤滋樹 (武蔵野通研)

〔概要〕 Horn 節の図形的な特徴を利用して, プログラムの動作をディスプレイ
端末に表示する方法について述べる.

(7) 帰納的推論による並行型プログラムの合成

寺本昌弘, 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 並行型プログラムを合成する各プロセスの実行例の集合から, プログラ
ムを合成する方法について述べる.

(8) 見学: 理研・情報科学研究室にて数式処理向き Lisp マシン FLATS の
見学を行います.

* なお, 見学終了後, 理研共済クラブにて拡大連絡会を開催しますので是非ご参加下さい.

◆ 第 14 回 日本文入力方式研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 高橋秀俊, 幹事: 坂下善彦, 山田尚勇)

日 時 昭和 59 年 3 月 15 日 (木) 午後 1 時半~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 速記とワードプロセッサ 津田弥生 (大和速記文書処理センター)

〔概要〕 JIS キーボードに抵抗して親指シフトを採用, 入力機として使用してみ
ての評価と問題点.

(2) 日本語 UNIX での日本語入力方式と新機能

一ローマ字変換と漢字ヒストリー 中原 康 (東芝)

〔概要〕 日本語 UNIX: UX-300 F における日本文入力の操作性向上のための諸
機能とその有効性について報告する.

(3) 音声日本語ワードプロセッサ VWP-103 N モデル 2 の音声入力方式

井上 栄 (日電)

〔概要〕 新発売された音声日本語ワードプロセッサ VWP-103 N モデル 2 の音
声入力について述べる.

(4) タッチタイプ入力方式による日本語エディタ

池田勇二, 中西 隆, 郡司隆男, 大岩 元 (豊橋技科大)

〔概要〕 タッチタイプ方式による日本語文の高速入力を目指した TUT コードを
用いて編集作業を行うエディタを EMACS を参考にして作成した.

◆ 第 42 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 長尾 真, 幹事: 田中穂積, 辻井潤一, 野村浩剛)

日 時 昭和 59 年 3 月 16 日 (金) 午後 1 時~5 時

会 場 東京大学工学部 6 号館大会議室

〔東京都文京区本郷 7-3-1, 地下鉄: 丸の内線本郷三丁目下車, 東大・弥生門
Tel. 03 (812) 2111〕

議 題 (1) 専門用語の自動収集システムについて

吉村賢治, 山下明男, 日高 達, 吉田 将 (九大・工)

〔概要〕 学術論文の抄録文から専門用語を収集するシステム、その方式と JICST の科学技術文献速報・電気工学編を対象に行った実験結果を述べる。

(2) 日本語教育用 CAI システムの試作

一文字と語彙の学習— 白井英俊, 荒木卓也, 内藤佳有 (東大・工)

〔概要〕 外国人留学生を対象とした日本語教育システムをマイコン上で試作している。特に文字 (カタカナ, ひらがな, 漢字) の学習を支援するシステムについて述べる。

(3) 日本語文の意味の状況意味論的な記述 鈴木浩之 (松下電器)

〔概要〕 状況意味論の基本概念を用いて, 論理型意味表現を拡張した形でフレーム的に文の意味を記述する方法について述べる。

(4) コンセプチュアル・パーサとインファレンサ 田中卓史 (国立国語研)

〔概要〕 Yale 大学計算機科学科における Roger Shanck の自然言語処理の授業 (1982 年, CS 470) の homework 「10 word parser とインファレンサ」を紹介。

(5) 自然言語処理の発展と今後の課題 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 最近の自然言語処理技術の発展を研究会の活動を通じて展望し, 今後に残されている研究課題について報告する。

* 研究発表後, カナダ・モントリオール大学の R. Kittredge 教授の「カナダの自然言語処理研究の現状」についての講演を予定しております。

◆ 第 8 回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 淵 一博, 幹事: 雨宮真人, 二村良彦)

日 時 昭和 59 年 3 月 16 日 (金) 午前 10 時~午後 4 時半

会 場 日本アイ・ビー・エム 2 階大教室

〔東京都千代田区三番町 5-19, 地下鉄: 半蔵門線半蔵門下車, 徒歩 5 分, 新宿線九段下下車, 徒歩 10 分, 国鉄: 市ヶ谷下車, 徒歩 10 分, 英国大使館裏通り, ダイヤモンドホテルと霞友会館の間. Tel. 03 (265) 4247〕

議 題 (1) Optimal short-circuit evaluation of boolean expressions

(論理式の short-circuit 方式による最適な評価法)

佐々政孝 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 論理式の short-circuit 方式による評価についてそのコスト (時間) 計算, コスト最小化法, およびプログラミング言語のコード生成への応用について議論する。

(2) 構造化プログラム図式の分類 二村良彦 (日立・中研)

〔概要〕 計算過程を記述するための図式として, 構造化流れ図, 構造化言語, PAD などの構造化プログラム図式の分類法について報告する。

(3) 通信で結合されたプロセスの集合によるオペレーティング・システムの実現 田胡和哉, 益田隆司 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 UNIX を, 通信で結合された資源管理プロセスの集合により再設計, 実現したので, それについて述べる。

(4) Ada によるシステム・プログラムの記述 細川 馨 (日本 IBM)

〔概要〕 Ada のパッケージを応用して, オペレーティング・システムのモジュール

ルを記述する方法について具体例をもとに議論する。

(5) Valid 言語システム：遅延評価機構とその実現

長谷川隆三，雨宮真人（武蔵野通研）

〔概要〕 関数型と論理型の融合をめざした言語 Valid の設計およびインプリメンテーションについて述べる。特に，遅延評価・パターン照合機能の効率的な実現法を論じ，その応用例を示す。

(6) Nano-2: A Machine Oriented High-Level Parallel Programming Language

荒木啓二郎，有田五次郎，平原正樹（九大・工）

〔概要〕 高多重並列計算機 Hyphen 向けに設計した並列プログラミング言語 Nano-2 について，その設計方針と言語仕様の概要とを述べる。

(7) Concurrent Prolog インタプリタについて 新田克己（電総研）

〔概要〕 逐次マシン上で走る Concurrent Prolog サブセットのインタプリタを C 言語で試作したので，そのあらましを述べる。

* 今回の研究会は，ソフトウェア科学会と共催いたします。

◆ 第12回 グラフィックスと CAD 研究会

（発表件数：8 件）

（主査：穂坂 衛，幹事：井越昌紀，木村文彦，松家英雄）

日時 昭和 59 年 3 月 16 日（金）午前 9 時～午後 5 時

会場 機械振興会館 地下 3 階研修 1 号室（所在地は前記参照）

議題 (1) カラー画像処理装置 阿部省三（東芝総研）

〔概要〕 NTSC 入力画像を簡単な指示装置で対話的かつ高速に処理を行うコンパクトなカラー画像処理装置。

(2) 新しいユーザ・インターフェイス設計方法論の提案

杉山広幸，今宮淳美（山梨大・工）

〔概要〕 応用独立なユーザ・インターフェイスを，メッセージベースのマルチプロセス環境を用いて提供する方法を提案する。

(3) 透明物体表示のための改良光線追跡法(2)

安田孝美（三重大・工），横井茂樹，鳥脇純一郎（名大・工），

鶴岡信治，三宅康二（三重大・工）

〔概要〕 先に報告した改良光線追跡法を拡張し，色のついた透明物体等を表示可能にしたので，その方法について述べる。

特集：グラフィックス標準

(4) GKS によるグラフィック・プログラミング 山口 泰（東大・工）

〔概要〕 各種適用例により，GKS によるグラフィック・プログラミングの手法を示し，その特徴を論ずる。

(5) グラフィックス標準 (ISO, ANSI) の現状と将来

穂坂 衛（東京電機大）

〔概要〕 グラフィックス機能の標準化は，ISO, ANSI での GKS 決定後，各種言語との結合や，コミュニケーションとの関連も含めて急速に進展しつつある。ISO と ANSI との協力も密になってきた。各種の標準がどのような関係にあるのか，どの範囲をカバーしようとしているのか等について解説を行う。

- (6) ISO グラフィックス・メタファイル標準 VDM 川合 慧 (東大・理)
 〔概要〕 標準案作成の最終段階に入っている VDM の内容, 以前の版との相異点, および GKS 等との関連を示す.
- (7) 3次元グラフィックスとマン・マシン・インタラクション
 —3D・GKS と PHIGS— 木村文彦 (東大・工)
 〔概要〕 GKS と互換性を保った高機能グラフィックス標準 (3次元機能や, 高度なインタラクション機能) が提案されつつあるので, その考え方や将来の方向について考える.
- (8) IGES 概論
 〔概要〕 IGES 第1版, 第2版, および ANSI Y 14.26 M (製品定義データの伝達のための数値表現) の概要について紹介する.
- (9) 総合討論
 * 上記特集に関連する ISO や ANSI の下記の文書があり, それらを参照したい方への利用方法を一考したく存じます. 御関心をお持ちの方は, とりあえず学会研究会係あて, 葉書にて住所, 氏名, 電話番号, 希望文書名などをお書きのうえ, ご連絡ください.
 文書名: (1) GKS 規格書
 (2) GKS と言語の結合 (FORTRAN, RASCAL, BASIC)
 (3) メタファイル (VDM)
 (4) GKS 3次元拡張 (3D・GKS)
 (5) PHIGS

◆ 第40回 データベース・システム研究会 (発表件数: 3件)

(主査: 酒井博敬, 幹事: 有澤 博, 吉田郁三)

- 日 時 昭和59年3月23日(金) 午後1時半～5時
 会 場 機械振興会館 地下3階2号室 (所在地は前記参照)
 議 題 (1) PALET-0 のオフィスデータベース機能
 鶴岡邦敏, 渡部和雄, 西原義之 (日電)
 〔概要〕 テーブル形ドキュメント管理システム PALET-0 のオフィスデータベース管理機能, 特にドキュメント様式とデータ構造の柔軟な定義/更新機能について報告する.
- (2) オフィスデータベースシステム
 上田謙一, 菅野 淳, 本田邦夫, 山口正博, 岡村嘉己 (松下技研)
 〔概要〕 マイクロプロセッサを使用し, 端末としてパソコンをつなげて日本語の会話形式で利用するリレーショナルデータベースマシンの概要を述べる.
- (3) エンジニアリング・データ文書化/グラフ化支援システムの開発
 中村史郎, 木村淳美, 金居貞三郎, 大町一彦 (日立・シ研)
 〔概要〕 エンジニアリング業務の統合化を支援するための汎用ソフトウェアとして, 設計ドキュメントの作成およびデータベース検索結果のグラフ化支援システムを開発したので報告する.

◆ 知識工学と人工知能研究会

59年度前期の開催予定は下記の通りです. なお, カッコの中は申込締切日です.

5月8日(火) 東京, 7月12日(木)・(4月末日) 仙台, 9月19日(水)・(6月末日) 筑波,
 11月22日(木)・(8月末日) 東京.

昭和 59 年度役員選挙について

本会定款第 20 条にもとづき、来る 5 月 18 日開催の第 25 回通常総会をもって本会役員の数半が退任されます。従って昭和 59 年度の役員選挙は、2 月中旬に別途送付される投票用紙（往復はがき）により行われます。正会員各位は下記の要領により、同投票用紙にてもれなく投票をお願いいたします。

投票用紙記載の候補者は、投票者の参考に供するために、本会理事会が推薦したものです。この候補者の中から選定される場合は、別掲の候補者名簿をご参照のうえ、「選定欄」に○印を付け、またこの候補者以外の会員（正会員に限る）を選定される場合は、それぞれの区分の空欄に氏名・所属を記入のうえ、ご投票ください。

記

1. 別送の投票用紙（返信はがき）の選定欄に○印をおつけください。
2. 副会長は 1 名の単記、理事は、研究関係は 1 名の単記、教育関係、製造・販売関係、利用関係は各 2 名以内の連記、監事は 1 名の単記とし、これをこえた場合には無効といたします。
3. 改選定数は、副会長 1 名、理事 9 名、監事 1 名です。
ただし、理事 9 名の選定は、まず各関係分野別の得票順に従い、研究関係 1 名および教育、製造・販売、利用関係各 2 名を選出し（合計 7 名）、残りの 2 名については、関係分野にとらわれることなく全分野を通じて高得票順に選出いたします。
4. 投票の締切は、**昭和 59 年 3 月 9 日（金）**の郵便消印があるものまでを有効といたします。
5. 投票用紙（はがき）は料金受取人払ですから、切手を貼付する必要はありません。
6. 投票用紙記載の候補者は 50 音順です。

昭和 59 年度役員改選候補者名簿

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
副会長	榎本 肇	東工大 23	東京工業大学工学部教授
	元岡 達	東大 27	東京大学工学部教授
理事 (教育)	伊理正 夫	東大 30	東京大学工学部教授
	大須賀 節雄	東大 32	東京大学工学部境界領域研究施設教授
	富永 英義	早大 37	早稲田大学理工学部教授
	廣瀬 健	立教大 36	早稲田大学理工学部教授
	福村 晃夫	名大 24	名古屋大学工学部教授、大型計算機センター長
	森 亮一	東大 28	筑波大学電子・情報工学系教授
理事 (研究)	池田 克夫	京大 35	筑波大学電子・情報工学系学術情報処理センター教授
	樽松 明	早大 36	国際電信電話(株)研究所端末装置研究室長
	棟上 昭男	東大 35	電子技術総合研究所ソフトウェア部長

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
理事 (製造・販売)	関 弘	東 大 31	(株)日立製作所神奈川工場副工場長
	鶴 田 清 治	早 大 25	日本アイ・ビー・エム(株)理事技術渉外担当
	中 島 正 志	神 戸 大 33	三菱電機(株)計算機製作所ソフトウェア製造管理部長
	松 下 温	慶 大 38	沖電気工業(株)システム本部開発第三部長
	三 上 徹	東 大 34	日本電気(株)C&Cシステム研究所長代理
	米 田 英 一	東 大 34	東京芝浦電気(株)情報システム事業本部ソフトウェア担当副技師長
理事 (利用)	相 沢 輝 昭	京 大 38	NHK 総合技術研究所主任研究員
	川 合 英 俊	北 大 31	情報処理振興事業協会技術センター所長
	澤 田 正 方	東 大 33	日本国有鉄道東京システム開発工事局長
	澁 谷 多喜夫	早 大 33	日本電信電話公社データ通信本部第四データ部長
	東 山 尚	早 大 34	千代田化工建設(株)システム部長
	戸 田 保 一	阪 大 29	野村コンピュータシステム(株)専務取締役
監事	石 井 康 雄	東 大 29	(株)富士通研究所川崎研究所情報システムセンター長
	三 浦 大 亮	東 大 32	東レエンジニアリング(株)機器事業本部企画管理部長

(五十音順)

[参 考]

昭和 59 年度留任役員名簿

役職名	氏 名	勤務先
会 長	坂 井 利 之	京 大
副 会 長	三 浦 武 雄	日 立
理 事	青 山 義 彦	日 立
理 事	鈴 木 良 夫	日本 I B M
理 事	反 町 洋 一	三菱総研
理 事	高 村 真 司	横須賀通研
理 事	寺 田 浩 詔	阪 大
理 事	永 井 和 夫	国 鉄
理 事	松 本 大 四	三 菱
理 事	渡 部 和	日 電
監 事	山 本 欣 子	情 開 協

退任役員名簿

役職名	氏 名	勤務先
副 会 長	萩 原 宏	京 大
理 事	池 野 信 一	電 通 大
理 事	石 田 晴 久	東 大
理 事	小 林 登	電 電
理 事	高 月 敏 晴	野村コンピ ユータ
理 事	田 中 千代治	ユ 三 菱
理 事	辻ヶ堂 信	富 士 通
理 事	当 麻 喜 弘	東 工 大
理 事	永 井 雄 二	日 立
理 事	明 午 慶一郎	日本ビジネス コンピュータ
監 事	藤 中 恵	日 立 通 信 シ ス テ ム

昭和 59 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

前号本欄でお知らせしたとおり、1月下旬に昭和59年度会費および購読費の納付書（郵便振替用紙）を発送いたしましたので、納入かたよろしくお願ひ申し上げます。（会費、購読費は58年度と同じで据置き。）

会 費	正会員 7,200 円	学生会員 3,000 円（大学院修士課程まで）
購読費	論文誌 4,500 円	欧 文 誌 3,000 円

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3月末までに率先してご納入いただきたく存じます。

また、「論文誌」（隔月刊）および「欧文誌」（季刊）は有料頒布となっておりますので、新規購読希望の方はその旨振替用紙通信欄にご記入下さい。

なお、58年度購読費未納の方には、昨年11月下旬にその旨連絡いたしましたので、2月20日までに納入されない場合には、3月号から会誌および購読誌の送付をストップいたしますので、ご注意ください。（会費滞納者は9月号から会誌・購読誌の送付をストップしております。）

第 29 回 全国大会（昭和 59 年後期）の仙台開催予定について

昭和59年秋の第29回全国大会は、東北支部のご好意にあずかり、これまでより1カ月繰上げて、下記により開催の予定です。

つきましては、同全国大会の一般講演申込みの締切りは5月上旬となる予定ですので、3月号本欄にご留意ください。

記

期 日	昭和59年9月11日(火)～13日(木)の3日間
会 場	東北工業大学（仙台市八木山香澄町 35-1）

情報処理学会第 28 回 全国大会 (昭和 59 年前期) 参加について

期 日 昭和 59 年 3 月 13 日 (火)～15 日 (木)
会 場 電気通信大学 (東京都調布市)

一般参加の方へ

1. 総 受 付 電気通信大学講堂正面玄関内
2. 参 加 費 会 員 1,000 円 (賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます.)
非会員 2,000 円
3. 論 文 集 代 定 価 6,000 円 (予約価 5,000 円)
(当日, 予約者以外にお頒けできるのは, 残部のある場合に限りです.)
4. 論文集予約 2 月 24 日締切の予約を原則としますので, 12 月号綴込みの申込書をご利用ください.

◎参加される方は, 総受付にて参加費を納め, 参加章を受けとってください. 参加章を胸につけていないと会場に入れません.

一般講演を行う方へ

1. 講演者は, 講演の始まる前に, 必ず各セッション会場前の講演者受付で, 出席の確認を受けてください.
2. 講演者は, おそくとも自分の前の講演者の講演時間中には, 座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください.
3. 一般講演の時間は, 質疑を含めて, 15 分を原則とします (都合により 13 分のセッションもありますのでお含みください). したがって時間内に十分に講演の主旨を伝えられるように, 事前の準備をお願いします. 講演中でも時間がくれば打ち切ります.
4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します.
5. 講演の代読は認めません.
6. 補助教具として, OHP が使えます. OHP に使う原図は説明の文字や線・点はなるべく簡潔に書き, よく判読できるよう準備してください. スライドは N, P 会場のみ使用できます. また, 掛図 (3 枚以内) は, 各自で黒板に止めてください.

その他の一般注意

1. 昼食は学内食堂 (プログラムの会場案内図参照) が利用できます. 休憩室は B 棟ロビーと西 5 号館に, コンピュータ図書・カタログ展は B 棟ロビーにありますので, ご利用ください.
2. 電話の呼び出しはいたしかねますのでご了承ください (万一止むを得ない場合のみ, 伝言板に掲示のみいたします). Tel. 0424 (85) 1067
3. 駐車場はありませんので, 自家用車による参加は厳禁します.

会員名簿（昭和 58 年度）の予約について

前号本欄でお知らせしたとおり、4年振りの会員名簿（B5判、約500ページ）を3月末に発行いたします。

つきましては、会員特価にて下記により予約を受付けておりますので、期日までにお申込みください。なお、予約は会員のみとします。

記

価 格 会員予約特価 2,600 円（会員定価 4,000 円）（送料込）。
申込締切 昭和 59 年 3 月 16 日（金）
申込方法 前号本欄末尾に綴込みの郵便振替用紙にて、ご送金ください。

中国四国支部設立総会について

このたび関西支部から中国四国地域を分離することとなり、下記により情報処理学会中国四国支部の設立総会を開催します。中国および四国地区に在住または勤務する会員はご出席をお願いいたします。

記

日 時 昭和 59 年 3 月 21 日（水）14 時～18 時
会 場 広島教育会館（広島市東区光町 2-7-31 Tel. 082 (264) 3111）
○総会（14 時～15 時）〈3 階せきれいの間〉
○記念講演（15 時～16 時）〈同上〉
ニューメディア時代の技術者のあり方 会長 坂井 利之
○設立祝賀会（16 時～18 時）〈3 階あびの間〉
会費 3,000 円

なお、準備の都合がありますので、祝賀会ご出席の方は、3月19日（月）までに下記にご連絡下さい。

問合せ先 〒724 東広島市西条町大字下見 広島大学工学部第二類（電気系）
中村 庚二 Tel. 0824 (22) 7111（内線 3443）

「プログラム設計技法の実用化と発展」シンポジウム

開催のお知らせ

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募頂き誠に有難うございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催致しますので、多数の方々のご参加をお願い致します。

日 時 昭和 59 年 4 月 10 日 (火), 11 日 (水), 12 日 (木) 9 : 00 ~ 17 : 00

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

参加費 会員 12,000 円, 非会員 18,000 円, 学生会員 6,000 円

(テキストのみ 3,000 円, 送料 300 円)

申込締切 昭和 59 年 3 月 23 日 (金) (申込書は今月号にあります)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第 1 日 4 月 10 日 (火)

総司会 花田 収悦 (横須賀通研)

● Opening Address (9 : 00 ~ 9 : 30)

木村 泉 (東工大)

● 総合解説「設計技法概観」(9 : 30 ~ 11 : 30)

鳥居 宏次 (電総研)

● 従来技法の解説等に使用する共通例題の説明 (11 : 30 ~ 12 : 00)

山崎 利治 (日本ユニバック)

—— 昼食 (12 : 00 ~ 13 : 00) ——

セッション 1 従来技法の解説 (13 : 00 ~ 17 : 00)

座長 河田 汎 (富士通)

● ワーニェ法

鈴木 君子 (内田油圧)

● 複合設計法

久保 未沙 (日本アイ・ビー・エム)

—— 休憩 (15 : 30 ~ 15 : 45) ——

● ジャクソン法

大野 洵郎 (JBA)

第 2 日 4 月 11 日 (水)

セッション 2 設計法—I (9 : 00 ~ 11 : 50)

座長 寺本 雅則 (日電)

● 「SP-FLOW」によるデータ構造に基づくシステム設計法

臼井 義美 (日本電子計算)

● 標準構造に基づく系統的ソフトウェア設計法

片岡 雅憲 (日立)

—— 休憩 (10 : 20 ~ 10 : 30) ——

● 本質処理を出発点としたプログラム設計法

佐藤 匡正 (横須賀通研)

● プログラム設計法 PAD/PAM とその教育効果

二村 良彦 (日立), 藤田 勝彦 (日立茨城工業専門学院)

—— 昼食 (11 : 50 ~ 12 : 50) ——

セッション 3 設計法—II (12 : 50 ~ 14 : 50)

座長 斎藤 信男 (慶応大)

● 論理設計言語 BAGLES

和田 晴彦 (富士通金融システムエンジニアリング), 横山 武史 (富士通)

● モデルに基づいたソフト生産技術と実験システム ISMOS

中田 修二, 山崎 剛 (日電)

● 構文意味記述によるプログラムの作成

森沢 好臣 (日本ユニバック)

—— 休憩 (14 : 50 ~ 15 : 00) ——

セッション 4 環境 (15 : 00 ~ 17 : 00)

座長 関 栄一郎 (国鉄)

● MOTHER SYSTEM によるソフトウェアの設計と製造

西村 高志 (IPA)

● 分散型ソフトウェアの開発環境におけるユーザインタフェース

中村 修, 水場 英世, 村山 正之, 斎藤 信男 (慶応大)

- 文書情報の差を利用する版管理エディタ DIFF とその評価

酒井三四郎, 落水浩一郎 (静岡大)

第3日 4月12日 (木)

セッション 5 Methodology の提案 (9:00~11:40)

座長 野木 兼六 (日立)

- 階層的仕様言語 (HISP) に基づく設計技法
- ダイクストラによるプログラム設計法

岡田 康治 (電総研)
原田 賢一 (慶応大)

——休憩 (10:40~10:50) ——

- IOTA のプログラミング支援環境

湯浅太一, 中島 玲二 (京大)

——昼食 (11:40~12:40) ——

セッション 6 従来技法の利用実例 (12:40~14:40)

座長 春原 猛 (三菱電気)

- 北海道電力の事例
- 東京ガスの事例
- 東京証券計算センターの事例

山本 彰
藤原 邦子
岡村 浩行

——休憩 (14:40~15:00) ——

パネル討論 (15:00~17:00)

「設計技法の現状と将来」

司会 吉村鉄太郎 (管理工学研)

パネリスト: 紫合 治 (日電ソフト生産技研), 藤原 邦子 (東京ガス),

三浦 大亮 (東レ), 山崎 利治 (日本ユニパック) 他

昭和 59 年 月 日

「プログラム設計技法の実用化と発展」シンポジウム 参加申込書

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 12,000 円 非会員 18,000 円 学生会員 6,000 円

○送金方法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945

富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門支店 0000608

三井銀行本店 4298739

住友銀行虎ノ門支店 10899

三和銀行虎ノ門東京公務部 21409

名義人 東京都港区芝公園 3-5-8 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通
請求先 _____

注) 申込書は1枚1人として下さい (この用紙のコピーで可)。

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(隔月刊)および欧文誌“Journal of Information Processing”(略称 JIP・季刊)は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申込みください。郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は1月号78ページにあります。

年間購読料	会 員	非 会 員
論 文 誌	4,500 円	7,800 円
欧 文 誌	3,000 円	6,000 円 (海外 7,000 円)

昭和 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申込みます。(該当欄を○で囲む)

1. 氏 名 _____ 会員 (正, 学生, 賛助)・非会員

連絡先 (〒 _____)

_____ 電話 _____

送本先 (〒 _____)

注) 会員には会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌 (申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌 (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

b. 欧文誌“Journal of Information Processing”(_____ 巻 _____ 号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 _____ 月 _____ 日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

4. その他 (学会事務局への連絡事項)

本会協賛等の行事案内

	(開催期日・場所)	(主催・問合せ先)
ホームエレクトロニクス 講習会	昭和 59 年 4 月 27 日(金) 日本電機工業会館	(社)電気学会東京支部 Tel. 03 (201) 0983
第 14 回 信頼性・保全性 シンポジウム	昭和 59 年 5 月 29 日(火) ～ 31 日(木) 農協ビル	(財)日本科学技術連盟 Tel. 03 (352) 2231 (内 524)
SPIE Seminar “Applications of Optical Digital Data Disk Storage Systems”	June 26-28, 1984 Brussels, Belgium	SPIE-The Int'l. Society for Optical Engineering, USA

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper(原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note(2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000